

QLIKVIEW LICENSE LEASING

QlikView Technical Brief

2012年2月

はじめに

本ドキュメントでは、QlikView Server (QVS)のライセンス・リース機能を用いて各ユーザーにライセンスを割り当てる手順を説明しています。ここでは QlikView Server とユーザーライセンスに関する内容を記載しており、追加のコンポーネント類 (Publisher、SAP Connector、WebParts、WorkBench など) は含みません。

背景

QlikView v9 より前のバージョンでは、QVS、Publisher などの各サーバー製品、また Developer User もしくは Professional User などのユーザー種別毎に、個別のライセンスキーが発行されていました。大規模展開をしている顧客は大量の Developer / Professional User ライセンスを所有しており、これらのライセンスキーを手動で配布・インストール・管理する必要がありました。

Developer / Professional User の各ユーザーは個別のライセンスキーを付与され、それぞれのローカルクライアントにライセンスキーをインストールすることで Personal Edition の制限を解除する必要がありました。

一般的に、手作業でライセンス付与を行う場合は、どのユーザーに対してライセンスが付与されているのかを管理する必要があります。このような方法はミスを誘発し、顧客が意図しないライセンス規約違反を引き起こすことがあります。

ローカルライセンスキーはオフライン環境での開発を保証するものであり、オンラインのサーバー上のドキュメントに対するアクセス権は提供されません。v9 より前のバージョンでは、開発者がサーバー上にデプロイされたドキュメントにアクセスする場合には、上記とは別に QVS への Client Access License(CALs)も必要でした。

従業員の入社・退職などに応じて組織全体で QlikView ライセンスを効率的に管理するための、より良いライセンス管理方法が求められていました。また、顧客が常にコンプライアンスを保証され、ライセンス違反に関する問題から顧客を保護するための、体系的なメカニズムが必要でした。

このような課題に対処し、簡素化されたライセンス管理方法を提供するために、QlikView v9 からライセンス・リースが導入されました。

ライセンス・リース

ライセンス・リースは QlikView v9 以降の QVS 環境で導入されており、ユーザーライセンスを QVS のライセンスキーに統合することによって、QlikView Desktop のインストール時に個別のユーザーにライセンスキーを付与する作業を軽減するように設計されています。これは顧客に単一の QVS ライセンスを発行することで、オフライン環境での開発者を含む全てのユーザーライセンスを構成することを保証しています。また、ライセンス・リースは個別のローカルライセンスキーとサーバーアクセスに必要な CAL を単一の Named CAL に統合しており、開発者がサーバードキュメントにアクセスする際に必要な手続きを軽減します。

現在は、開発者が QVS に接続すると 30 日間のオフライン開発が可能なローカルライセンスを付与され、その後はサーバーに再度接続することで、そのライセンス期間を更新することが出来ます。ライセンス期間はユーザーがサーバーに接続する毎に、30 日単位で延長されます。

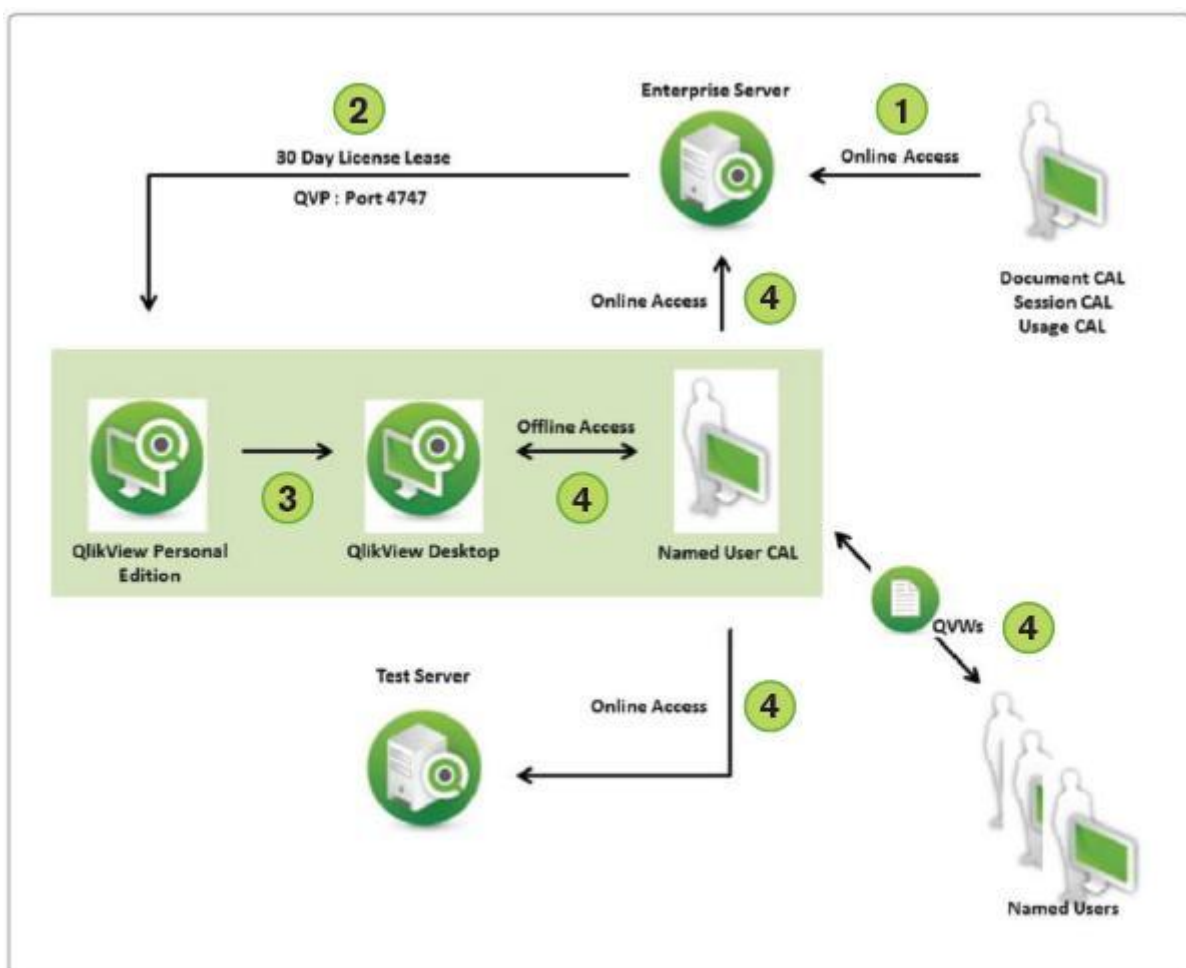
ライセンス・リースは以下の 2 種類のいずれかの方法で、Named User CAL を保有している QlikView Enterprise Server（もしくは Small Business Server）から取得することが可能です。

1. Access Point 経由でサーバー上の QlikView アプリケーションを開く ※
2. 「サーバーから開く」を使用して、サーバー上のアプリケーションを開く ※
(この方法は QlikView Desktop でのみ利用可能です)

ライセンス・リースは QlikView Desktop から、ポート 4747 の QVP プロトコルを通じて提供されます。QlikView Desktop も IE Plug-in も、この暗号化されたポートを経由して QlikView サーバーと通信します。ポート 80 上で実行される AJAX クライアントではライセンス・リースは提供されません。ライセンス・リースが成功すると QlikView Personal Edition の制限が解除され、他ユーザーが開発したアプリケーションを開くことが出来るようになります。

※ QlikView Management Console(QMC)上で"Allow License Lease"が有効に設定されている必要があります

図 1 ライセンス・リースのプロセス



ライセンスの種類

ライセンス・リースは Named User CAL のみ可能であり、このライセンスはオンラインまたはオフライン (QlikView Desktop) で利用できます。その他のユーザーライセンスである Document CAL、Session CAL、Usage CAL はオンラインのライセンスで、ユーザーはデータ分析の際にはサーバーに必ず接続する必要があります。(オフラインでの利用は出来ません)

QlikView Test Server

ほとんどの顧客は、本番環境からテスト環境へライセンスを複製する際に、QlikView Test Server を用いることを選択します。QlikView Test Server はリース可能なライセンスを持たず、ライセンス・リースは出来ません。ユーザーが Test Server 上のアプリケーションを開く場合は、実際の本番環境の QVS からリースされたライセンスを使用する必要があります。QlikView の開発者が Personal Edition の制限を解除してオフラインで開発を可能にするために必要なライセンスサーバーは 1 台だけです。これは QlikView アプリケーションの作成・配布を複数台の追加サーバーに対して実施することを制限するものではありません。

分離環境

開発者が完全に QlikView Server から分離された環境にあり、ポート 4747 経由でのライセンス取得が不可能である場合は、別途ローカルライセンスキーを購入し、個別にインストールする必要があります。

サーバーが存在しない環境では、開発環境のローカルライセンスキーが必ず必要です。

サーバーの種類

ライセンス・リースが可能なサーバーは、以下のエディションです。

- QlikView Enterprise Server
- QlikView Small Business Server

ライセンス・リースが不可能なサーバーは以下のエディションです。

- QlikView Test Server
- QlikView Extranet Server
- QlikView Information Access Server

OEM Server

QlikView v11 では OEM アイランド機能を導入し、OEM パートナーの知的財産権を保護しています。OEM アイランドは OEM パートナーのソリューション以外の目的で OEM サーバーを利用することを禁止するように設計されており、OEM パートナーによって許可された qvw ファイルのみが利用可能です。

OEM サーバーライセンスは LEF ファイル内に PRODUCT_ID 項目を持ちます。正しい PRODUCT_ID が埋め込まれた QlikView ドキュメントのみ、そのサーバー上で開くことができます。

QlikView Personal Edition は PRODUCT_ID が埋め込まれたあらゆる QlikView ドキュメントを開くことができます。PRODUCT_ID を持つ QlikView アプリケーションはユーザーモードでのみ開くことが可能です。これはユーザーがドキュメントプロパティのセキュリティ設定にはアクセス出来ないことを保証します。もしセキュリティ設定でユーザーに対して「ロードスクリプトの編集」を許可していた場合は、ユーザーはロードスクリプトの編集が可能ですが、データモデルが変更された場合は PRODUCT_ID に反映され、OEM パートナーの担当者による PRODUCT_ID の追加が必要です。

OEM ライセンスとして許可された QlikView Server ではライセンス・リースは出来ません。OEM エンドユーザーに対して全ての QlikView Desktop 機能を提供したり、他のローカルクライアントとのファイル共有を可能にしたりすることは出来ません。また PRODUCT_ID を持たない新しいドキュメントをパブリッシュすることも出来ません。

セキュリティ

ライセンス・リースの仕組みは Windows ユーザーアカウントに基づいて、QlikView Server に接続・認証し、アプリケーションを開きます。同様に、カスタム認証を利用している場合にも QlikView Server からライセンスを付与することが出来ます。この 2 種類のライセンス付与の手順については、後で詳細に説明します。

複数のライセンス・リース

1人のユーザーは、24時間以内に2台の異なる開発用クライアントでそれぞれ個別のライセンスをリースすることが出来ます。同じユーザーIDを使用して、24時間以内に3つめのライセンス・リースを試みた場合は、そのリクエストは却下されます。さらに、この3台目のクライアントが過去にライセンスを付与されていた場合、同一ユーザーが過去24時間以内に2台の異なる開発用クライアントでライセンス・リースを行っていると、この3台目のクライアントのライセンスは取り消されます。しかし、最後のリースから24時間が経過すれば、3台目のクライアントでライセンス・リースが可能となります。

ライセンス・リースの期間

ライセンス・リースの期間は30日に設定されており、変更は出来ません。

ライセンス・リースの手順

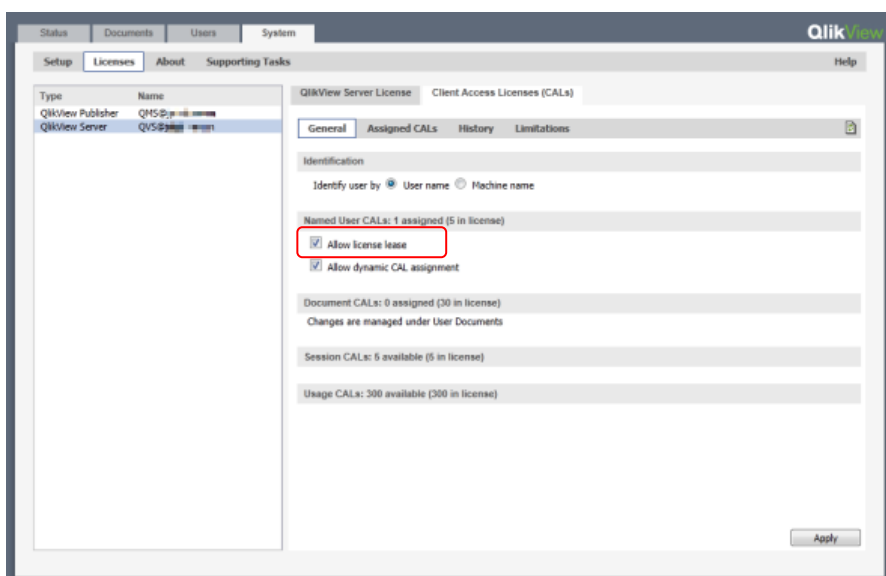
QlikView Server からライセンス・リースを行う方法は2種類あります。1つめの方法はQlikView 環境におけるユーザー認証としてカスタム認証を用いている場合に利用されます。2つめの方法は、Windows ユーザー認証を用いて QlikView Server に接続している場合に推奨されます。

Option 1: AccessPoint を経由したライセンス・リース

この方法は、AccessPoint を経由して QlikView Server からライセンス・リースを可能にします。これはカスタム認証を用いている環境で使用可能です。

まず QlikView Management Console でライセンス・リースが有効に設定されていることを確認し、次に、"Assigned CALs"タブで Named CAL を付与されるユーザーが登録されている、もしくは"Allow Dynamic CAL Assignment"が有効に設定され、少なくとも1つの未適用の Named CAL が利用可能になっていることを確認します。

図 2 QlikView Management Console(QMC)の"Allow license lease"オプション



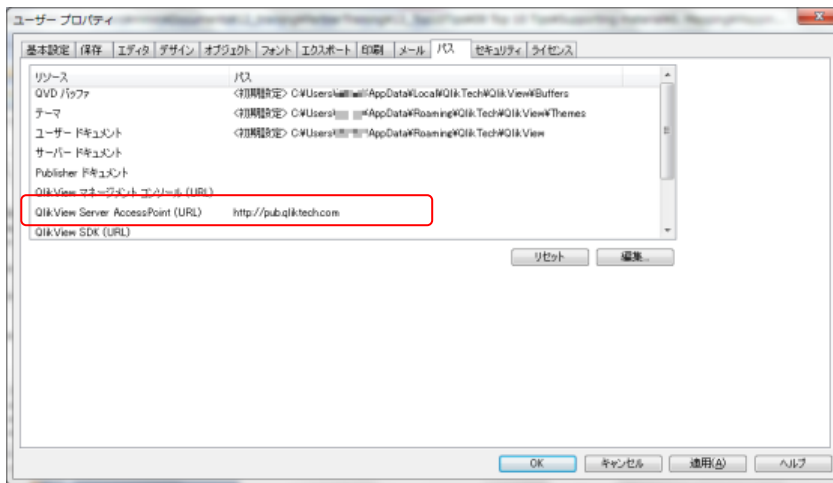
ライセンスが適用されていない QlikView Personal Edition は、QlikView Server からのライセンス取得前には「QlikView パーソナルエディションを起動しています」のメッセージが表示されます。

図 3 ライセンス未適用の QlikView (QlikView Personal Edition)



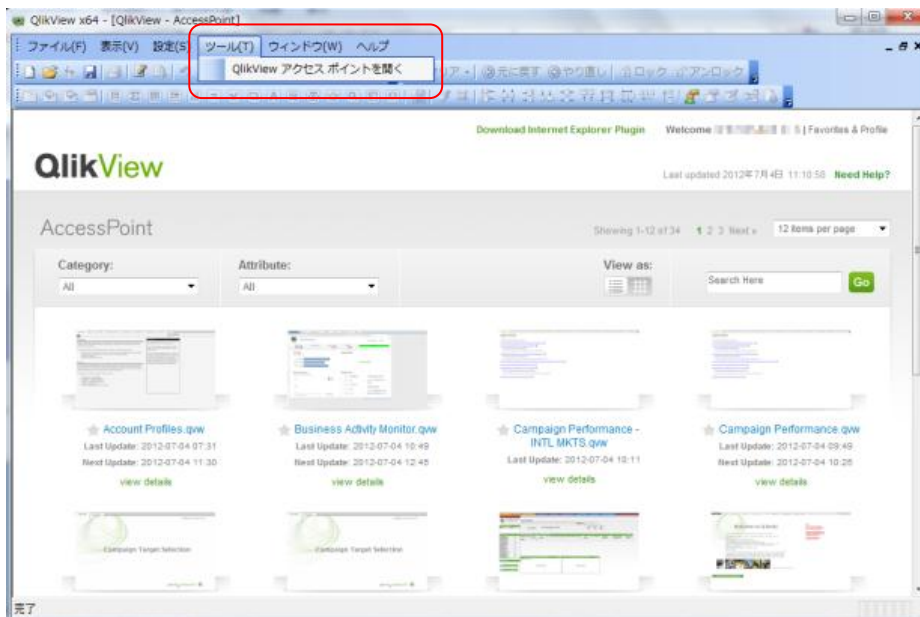
QlikView Desktop を起動し、「設定」メニューから「ユーザープロパティ」を選択して「パス」タブを選択します。「QlikView Server Access Point(URL)」をクリックしてハイライト表示し、「編集」ボタンをクリックします。Access Point の URL を入力して「OK」をクリックします。

図 4 AccessPoint URL の設定



「ツール」メニューから「QlikView アクセスポイントを開く」を選択します。QlikView AccessPoint で利用可能なドキュメント一覧が表示されるので、ドキュメントをクリックして開きます。

図 5 「QlikView アクセスポイントを開く」オプション



この時、QlikView は（サーバー上でライセンス・リースが有効に設定されていれば）サーバーからライセンスをリースし、QlikView Desktop は完全にライセンスされたものになります。

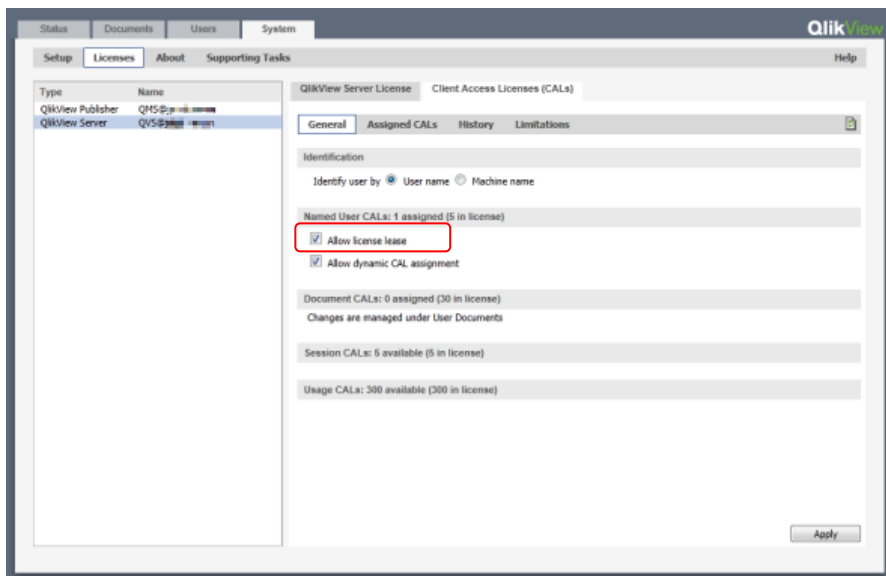
リースされたライセンスは 30 日間更新されなければ無効となります。ライセンスの更新はバックグラウンドで自動的に実行され、QlikView Desktop は Named CAL を保持している QlikView Server に接続します。また、サーバー上のファイルを開くことで、手動でアップデートすることも可能です。その場合は次のセクションを参照して下さい。

Option 2: 「サーバーから開く」を利用したライセンス・リース

この方法は、Windows ユーザーアカウントを、ユーザー認証および QlikView Server への接続に使用している場合に使われます。

まず QlikView Management Console でライセンス・リースが有効に設定されていることを確認し、次に、"Assigned CALs" タブで Named CAL を付与されるユーザーが登録されている、もしくは "Allow Dynamic CAL Assignment" が有効になっていて、少なくとも 1 つの未適用の Named CAL が利用可能になっていることを確認します。

図 6 QlikView Management Console(QMC)の"Allow license lease"オプション



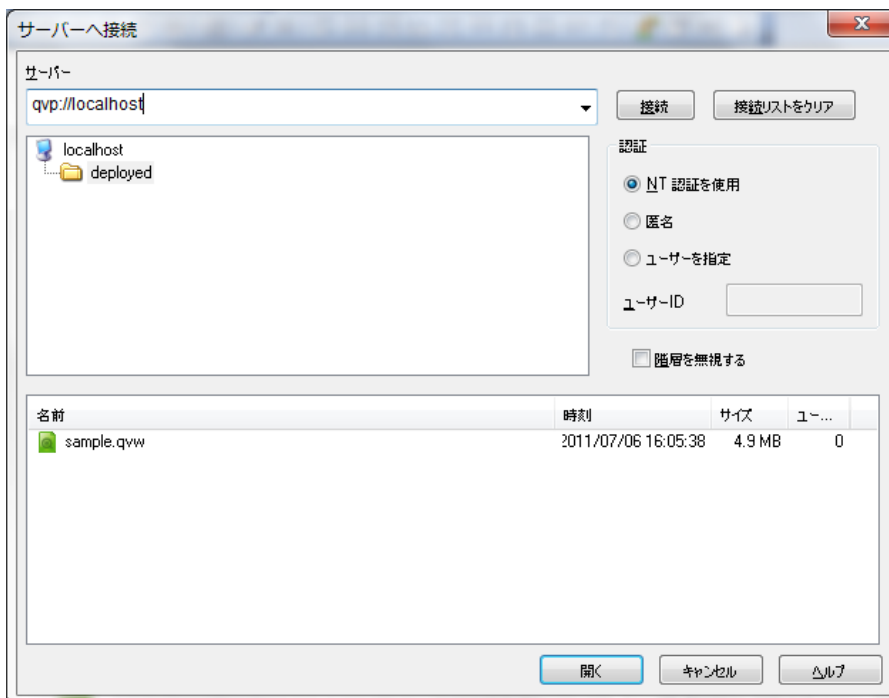
ライセンスが適用されていない QlikView Personal Edition では、QlikView Server からのライセンス取得前には「QlikView パーソナルエディションを起動しています」のメッセージが表示されます。

図 7 ライセンス未適用の QlikView (QlikView Personal Edition)



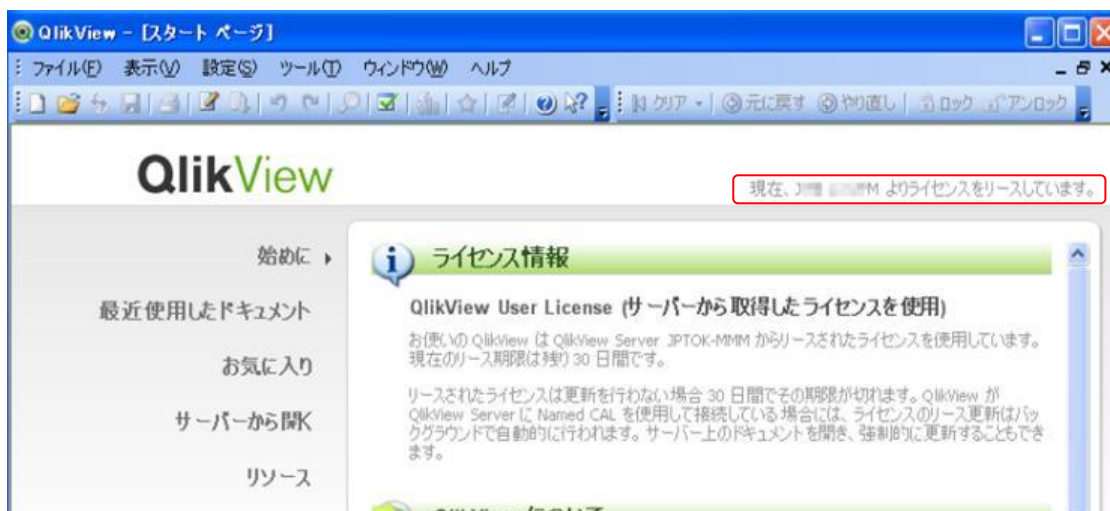
ライセンスをリースするには、ツールバーの「ファイル」メニュー>「サーバーから開く」を選択します。

図 8 「サーバーへ接続」ウィザード



サーバー名を入力して「接続」をクリックします。この動作によってライセンスがサーバーからリースされます。「キャンセル」ボタンをクリックすると、QlikView スタートページに戻ります。サーバーからライセンスがリースされたことを示すメッセージ「現在、[サーバー名]よりライセンスをリースしています」が表示されます。

図 9 ライセンス・リースされた QlikView Desktop



ライセンス・リースの失効

QlikView Management Console は、ユーザーに対して最後にライセンス・リースが発行された日付と時刻を記録して表示します。QMC から "System" タブを開き、サブメニューから "Licenses" を選択します。"QlikView Server" をハイライトして、右側の "Client Access Licenses (CALs)" タブを選択し、サブメニューから "History" を選択します。

この画面では、ライセンス・リースを行ったユーザー名と、ライセンスが割り当てられた日付と時刻を確認することができます。更新が行われなければ、表示されている日時から 30 日後にライセンス・リースは失効します。

図 10 QlikView Management Console 上のライセンス・リース履歴



CAL の削除

QlikView Management Console 上でユーザーに割り当て済みの Named CAL を削除した場合、QVS が Named CAL を削除するまで 24 時間かかります。したがって、ユーザー間で Named User CAL の付け替えを即時に行うことは出来ません。